

平成 28 年度第 2 回総合教育会議次第

日 時 平成 29 年 2 月 7 日 午後 2 時
場 所 ひかりプラザ 5 階教育資料室

1 開会

2 協議・調整事項

- (1) 歴史遺産を活かした国分寺市の魅力を高める取組について
…資料 1
〔ふるさと文化財課〕

3 その他

4 閉会

国分寺市における文化財の保存・整備・活用について

(1) 今までの取組み

国分寺市内に所在する文化財を「歴史と文化のまち」国分寺市が誇る貴重な歴史遺産として、今後、いかに保存し、活用すべきかについて国分寺市教育委員会は、平成 17 年 4 月「市内所在文化財の今後の保存、活用について（指針）」を策定しました。

その後、平成 22 年度に文化財の保存や活用のために必要な措置を講じることや歴史文化の継承や発展をはかることを目的に「国分寺市文化財の保存と活用に関する条例」を制定し、現在に至っています。

また、史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）の保存整備に関しては、平成 15 年 3 月「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）新整備基本計画」が策定され僧寺地区の整備基本方針が策定されています。さらには、平成 21 年 2 月「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）整備実施計画」を策定し、現実で実現可能な具体的整備（第一期整備）の内容を決定し、平成 23 年度より第一期の整備工事を実施しています。

① 国指定史跡（武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡）について（平成 29 年 2 月 7 日現在）

- ・ 国指定史跡地面積…145,367.16 m²
- ・ 史跡指定地公有化率（含む先行取得）…78.7%
- ・ 公有化面積…114,208.66 m²

② 市立歴史公園（4 地区）について

- ・ 武蔵国分尼寺跡
 - ・ 史跡東山道武蔵路（武蔵国分寺跡北方地区）
 - ・ 史跡武蔵国分寺跡（僧寺北東地域）
 - ・ 史跡武蔵国分寺跡（国分寺崖線下地域）
- ※歴史公園として設置した面積…33,970 m²

③ 市内の指定文化財について

- ・ 国指定文化財…5 件
- ・ 都指定文化財…4 件
- ・ 市指定文化財…29 件

(2) 現状の課題

- ① 国分寺市の歴史や文化に触れ、親しみ、理解していただく機会の拡充
- ② 出土品等の再整理・保管環境の改善
- ③ 国分寺の魅力を活かせる文化財の活用

(3) 平成 28 年度の実施

【整備】・・・史跡武蔵国分寺跡整備工事の進捗状況

【保存】・・・旧本多家住宅長屋門 保存修理工事の進捗状況

【公開活用】・・・文化財愛護ボランティア養成講座

校外学習の拡充、昆虫標本展示

市内文化財めぐり、教育 7 days「レプリカ作成」

市外文化財めぐり（上野国）、

歴史講演会、

湧水園 10 万人達成

(4) 近隣市との連携事業

府中市・・・観光振興連絡協議会による事業、日本遺産の申請

坂戸市・・・共同企画展の開催

鳩山町・・・市外文化財めぐり・歴史講座・文化財ボランティアの交流

(5) 平成 29 年度の予定事業

【整備】・・・金堂基壇整備他

【保存】・・・総合文化財調査

【公開活用】・・・ICT 技術の活用、解説板等の多言語化、

【歴史遺産活用に向けた今後の方向性（既存事業含む）】

（１）【史跡整備】

① 史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）



講堂跡 復元基壇



金堂跡

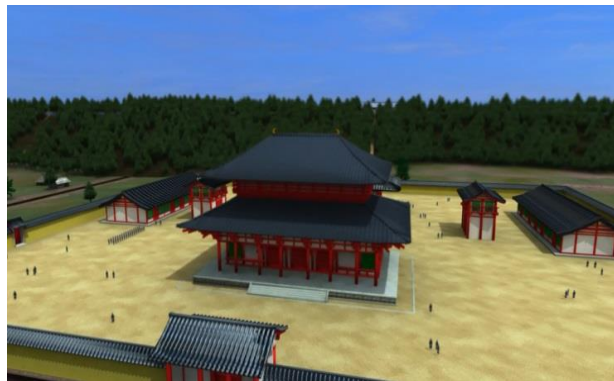
（２）【ICT の活用】

① 史跡公園周辺を中心にデジタルサイネージを設置し、情報発信整備を行う。



② 最先端のARやVR機能を用いて、武蔵国分寺がイメージできるような整備を行う。

③ （国分寺市）NHK『ブラタモリ』画像（平成24年1月9日放送分）⇒教材としての活用



④ ツイッター等による情報発信



(3) 【人材育成】

① 外国の旅行関係者やマスコミを対象としたモニターツアーの開催（平成 29 年 2 月実施予定）



文化財ガイドや普及活動に従事するボランティアを、市内外からの来訪者をおもてなす担い手とし育成し協力を仰ぐ。
【平成 28 年度現在国分寺市の文化財愛護ボランティアは 170 名が登録している】

② 観光ボランティアガイドの充実・育成

両市でガイドボランティアの活動をしている市民を対象として、語学講座や接遇講座を開催。地域のおもてなし人材を育成する。



外国人おもてなし語学ボランティア
おもてなし講座

① 平成 28 年 12 月 26 日「万葉・けやきルート」の運行により、史跡地への交通アクセスの利便性が図られました。今後は、観光スポットを巡る**観光振興に特化したミニバス**の運行やルート増設

バス



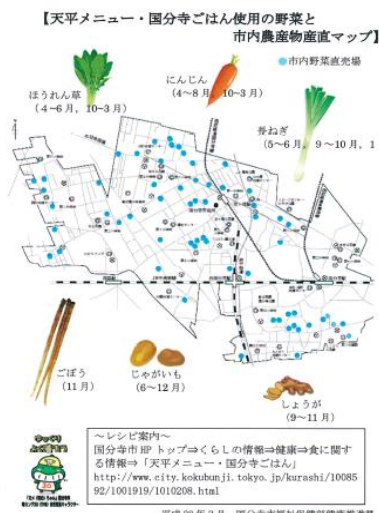
JR 中央ラインモールの「サイクル」、川越市の自転車シェアリングの事例を参考に、国分寺市への来訪者が、それぞれのペースで気軽に回遊・周遊できる移動手段を提供する。

自轉車



① 武蔵国にちなんだ「ご当地グルメ」の販売

食



天平メニュー・国分寺ごはん
にまつわる
むかしの食生活

昔の食事について考えたことはありますか？

「天平メニュー・国分寺ごはん」は、市の文化財である武蔵国分寺があった時代をイメージし、食事のパラソスを考え、地場野菜を使ったメニューです。市南施行 50 周年記念事業で市の栄養士が考案しました。市には、歴史的な国史跡 武蔵国分寺跡があります。奈良時代に聖武天皇が建てさせました。奈良時代のもっとも華やかな時代が天平文化の時代です。速い昔の食生活や天平メニューについて、紹介します。



② 赤米の活用



食育コラム 天平メニュー・国分寺ごはん

天平メニュー・国分寺ごはんは、市の栄養士が、天平文化の時代をイメージし、地場野菜を使い、食事のバランスにも考慮して、作りました。

武蔵国分寺が栄えた時代は、農耕道具が進歩し、食材も増え、加工食品も登場し、食生活の変化も目覚ましかったようです。塩・味噌・酢、バターやチーズなど乳製品も、当時から楽しまれていました。

市では遠い昔の食文化を紹介した天平メニューのリーフレットを作成しています。秋は収穫の季節です。ぜひ、新鮮な地場野菜でおいしい食事をお楽しみください。

■レシピ・リーフレットはこちらから

市HPトップページ→くらしの情報→健康→食に関する情報
→天平メニュー・国分寺ごはん

→健康推進課 ☎(042)321-1801

③ 国分寺史跡駅伝の開催

第3回 仲間と走ろう 国分寺史跡駅伝

小・中学生の参加者募集

12月3日(土) 都立武蔵国分寺公園内とその周辺のコースをチームで走る大会です。クラスメート、部活動の仲間、スポーツクラブの仲間など、チーム編成は自由です。チームを組んでご参加ください。

小学生のコース
(約1.4km)

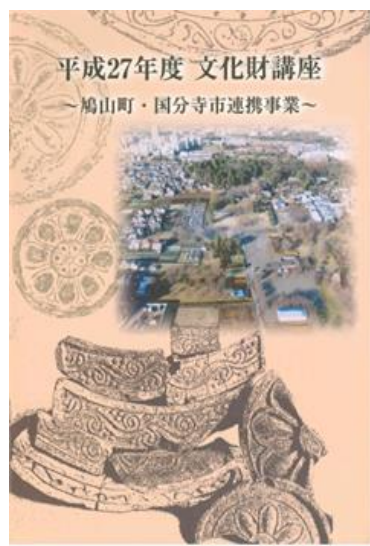
中学生のコース
(約1.7km)

※午前8時30分～都立武蔵国分寺公園内とその周辺(右図参照)市内在住・在学の小学5・6年生、中学生(無料)小学生男子の部・女子の部、中学生男子の部・女子の部(各種目20チーム(合計80チーム)※1チーム7人(監督=成人1人、選手5人、補欠1人)※10月28日(金)までに史跡駅伝大会参加申込書(兼選手登録票)を☎(042)323-9062または健康・スポーツ振興課(市役所第3庁舎)へ、申込書は、各小・中学校、市民スポーツセンター、スポーツ振興課で配布、市HPからダウンロード可※多数の場合は抽選→スポーツ振興課(内279)



(6) 【連携事業】

① 坂戸市との合同企画展、鳩山町との連携事業



② 府中市との連携（国分寺・府中観光振興連絡協議会）

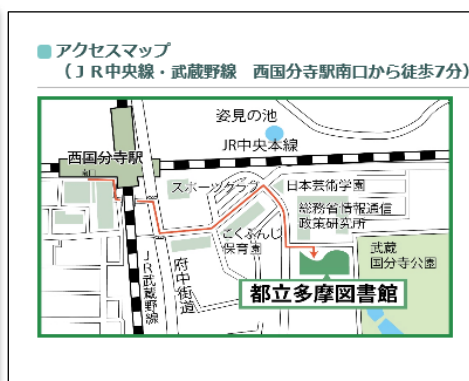
・アプリの作成



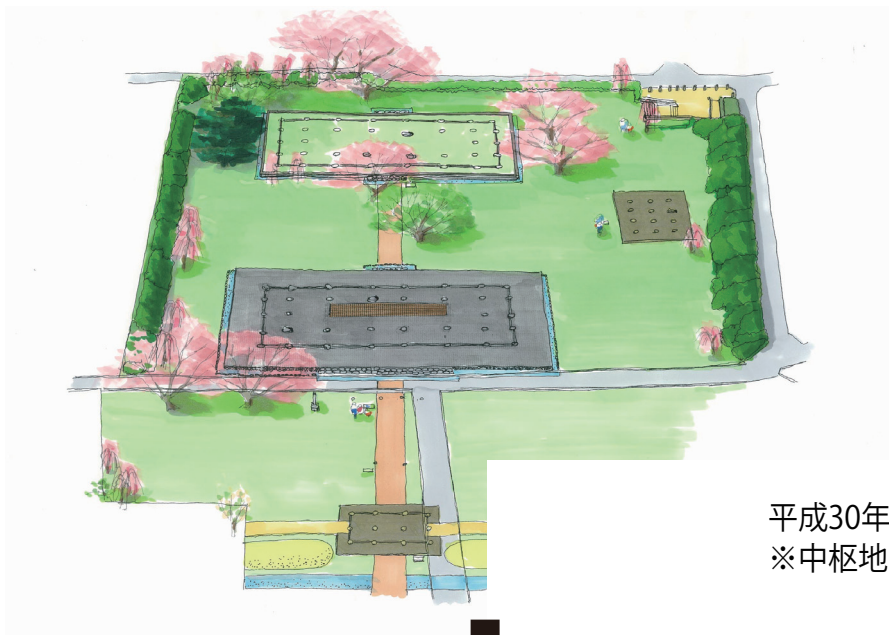
・スタンプラリー等の実施



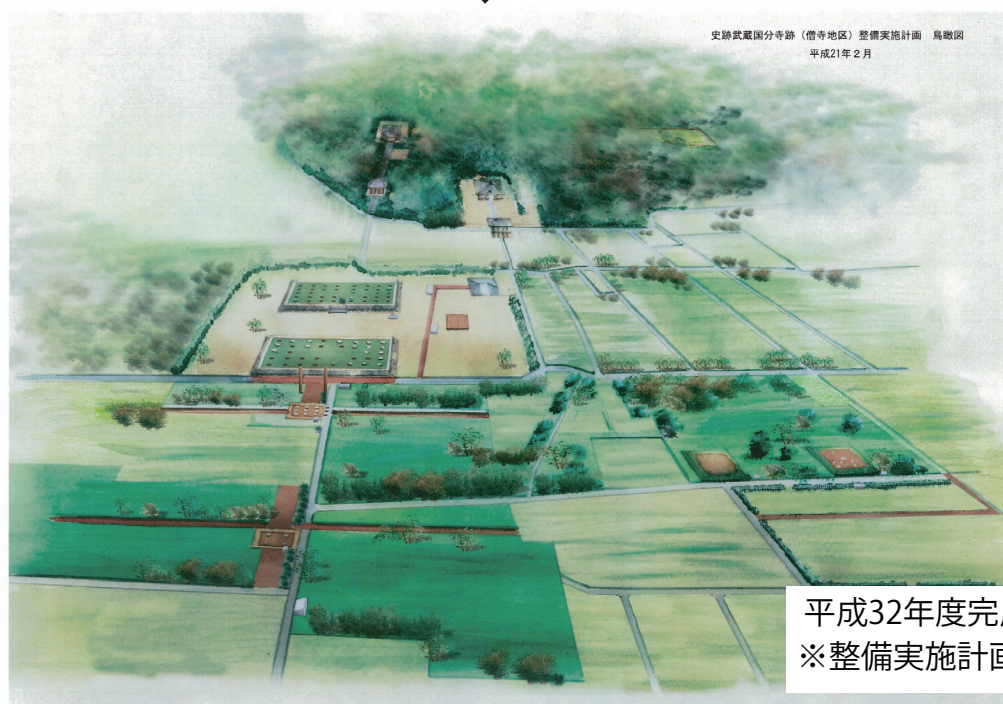
（７）【都立多摩図書館等の他機関との連携】



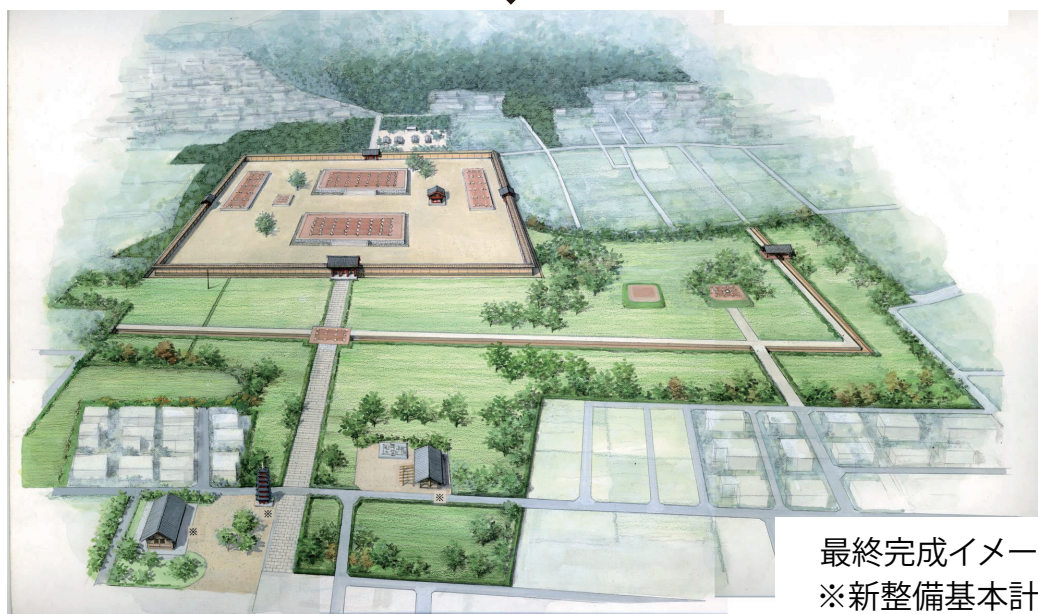
史跡武蔵国分寺跡 段階ごとの整備イメージ図



平成30年度完成イメージ
※中枢地区基本設計 (H22年度) より



平成32年度完成イメージ
※整備実施計画 (H20 年度) より



最終完成イメージ
※新整備基本計画 (H14年度) より

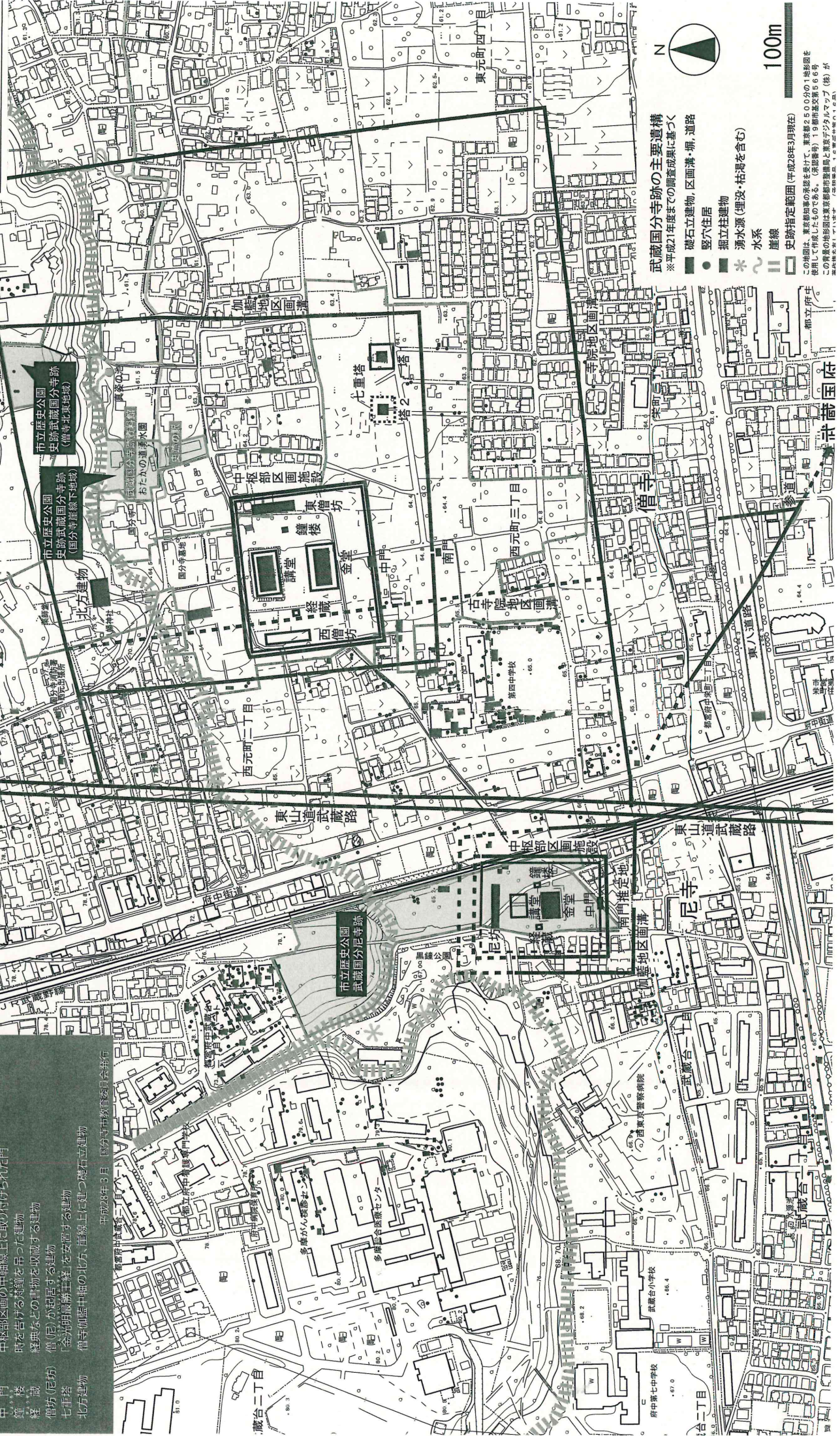
武蔵国分寺の規模と構造
僧寺の金堂を中心とし、東西15km、南北1kmに及ぶ範囲に、寺院に関連する集落が広がっており、その範囲が寺地として考えられています。
東山道武蔵路を挟んで東側に僧寺、西側に尼寺が配置され、国府から西へ通じる道路の分岐点には参道口(現府中市)があります。
僧寺は寺院地、伽藍地、中極部の三重に、尼寺は伽藍地、中極部の二重に区画されています。

武蔵国分寺を構成する主要伽藍
金堂 本堂を安置する建物
講堂 経典などの講読を行う建物
中門 中極部区画の中軸線上に取り付けられた門
鐘楼 時を告げる鐘を吊った建物
経蔵 経典などの聖物を収蔵する建物
僧坊(尼坊) 僧(尼)が起居する建物
「金光明最勝王經」を安置する建物
七重塔 僧寺伽藍中軸の北方、崖線上に建つ礎石立建物
北方建物

平成28年3月 国分寺市教育委員会発行

国指定 武蔵国分寺跡 附 東山道武蔵路跡

平成28年度 第2回
総合教育会議 資料No.1-2
ふるさと文化財課



武蔵国分寺跡の主要遺構
※平成21年度までの調査成果に基づく

- 礎石立建物、区画溝・堀、道路
- 竪穴住居
- 掘立柱建物
- 湧水源(埋没・枯渇を含む)
- 水系
- 崖線

史跡指定範囲(平成28年3月現在)
この地図は、東京府知事の承認を受けて、東京府250分の1の地形図を
使用して作成したものである。(作成時期) 1:9都市部縮尺566号
この図表の地形図は東京府都市計画課と東京府デジタルマップ(株)が
共同で作成したものである。

世分國6國全

国分寺は、奈良時代中頃の天平13年(741)に聖武天皇が発した「国分寺建立の詔」に基づいて、全国六十余国に建立された官立の寺院であり、僧寺と尼寺が対置されました。詔では、国の重なるにふさわしい良い場所を選んで国分寺を建立するよう命じられています。

武蔵国(現在の東京都、埼玉県、神奈川県の一部)では湧水が豊富な国分寺温泉を背にして、都と国府を結ぶ駅路(東山道武蔵路)の東側に僧寺、西側に尼寺を配しました。僧寺、尼寺ともに国分寺市内に所在し、国分寺市という市名はこのことに由来しています。

かつては、他にも全国に国分寺という名のつく自治体がありましたが、現在では東京都国分寺市のみとなっています。

附圖一 卅六回

縣名	備註	備註	所在地
廣德	兵馬總管府	府	兵馬總管府
美作	岡山縣津山市	府	岡山縣津山市
備前	岡山縣赤松市	府	岡山縣赤松市
備中	岡山縣北本市	府	岡山縣北本市
備後	岡山縣福山市	府	岡山縣福山市
安芸	広島縣安芸高田市	府	広島縣安芸高田市
周防	山口縣防府市	府	山口縣防府市
		府	山口縣防府市

地名	所屬之地	備註
茨城	福嶋郡太田市	尼寺
茨城	福嶋郡太田市 (備註)	尼寺
茨城	福嶋郡入管村	尼寺
豐前	福岡縣久留米市 (備註)	尼寺
豐前	福岡縣宮田郡みやこ町	尼寺
豐後	大分縣大分市	尼寺
豐後	大分縣大分市 (備註)	尼寺
肥前	佐賀縣佐賀市	尼寺
肥後	熊本縣熊本市	尼寺
日向	宮崎縣西郷市	尼寺
大隅	鹿兒島縣鹿屋市	尼寺
薩摩	鹿兒島縣薩摩市 (備註)	尼寺
薩摩	鹿兒島縣薩摩市 (備註)	尼寺
老牧	長崎縣松浦市	尼寺
老牧	長崎縣松浦市 (不)	尼寺

國名	所在地
紀伊	備前 和歌山県紀伊市
淡路	尾道 和歌山県高田市 (指定地) 備前 兵庫県南あわじ市 尾道 兵庫県南あわじ市 (指定地) 備前 伊豆県熱海市
阿波	尾道 徳島県西部石井町
讃岐	備前 香川県高松市
伊予	備前 愛媛県今治市 尾道 愛媛県今治市 (指定地)
土佐	備前 高知県高知市 尾道 (不詳)

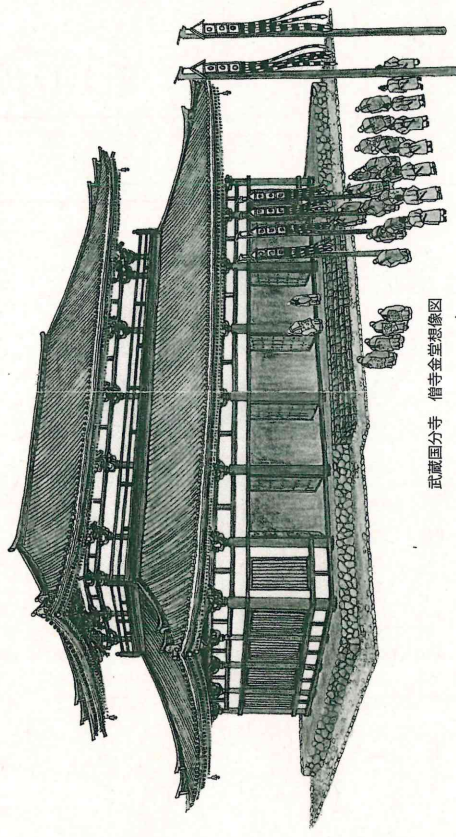
山背	信寺 尼寺	京都府木津川市
大和	信寺 尼寺	奈良県奈良市
河内	信寺 尼寺	大阪府柏原市
和泉	信寺 尼寺	大阪府和泉市
摂津	信寺 尼寺	大阪府大阪市 (不明)

国名	所在地
伊賀	信濃 伊賀市
伊勢	三重 津市 (伊勢)
伊豆	三重 桑名市 (伊豆)
志摩	三重 志摩市 (志摩)
尾張	愛知 豊田市 (尾張)
三河	愛知 豊田市 (尾張)
遠江	静岡 静岡市
駿河	静岡 静岡市
伊豆	静岡 伊豆市
甲斐	山梨 市川市
相模	神奈 相模原市
武蔵	東京 東京都心部
安房	千葉 千葉市
上総	千葉 千葉市
下総	千葉 千葉市
常陸	茨城 水戸市

地名	所屬區域	所在地	所屬區域	所在地
北江	尼特	溫里奧里市 (精定地)	溫里奧里市 (精定地)	溫里奧里市 (精定地)
美濃	尼特	(不明)	尼特	(不明)
飛騨	尼特	岐阜縣美濃市	尼特	岐阜縣美濃市
信濃	尼特	岐阜縣高山市	尼特	岐阜縣高山市
上野	尼特	長野縣上田市	尼特	長野縣上田市
下野	尼特	群馬縣高崎市	尼特	群馬縣高崎市
陸奥	尼特	栃木縣宇都宮市	尼特	栃木縣宇都宮市
羽羽	尼特	宮城縣仙台市	尼特	宮城縣仙台市
	尼特	山形縣田子市 (精定地)	尼特	山形縣田子市 (精定地)

地名	所 在 地
若狹	備前 鞆井原(今)市(備前)
越前	備前 鞆井原(今)市(備前)
加賀	備前 石見小豆市(不 明)
能登	備前 石見小豆市(不 明)
越中	備前 山崎(今)市(不 明)
越後	備前 新湊(今)市(不 明)
佐渡	備前 新湊(今)市(不 明)

磯寺	京都府京都市
内波	大阪府大阪市
丹波	兵庫県姫路市
後免	京都府京都市
馬場	京都府京都市(特定地)
因幡	兵庫県高砂市
伯耆	鳥取県鳥取市
出雲	鳥取県倉吉市
石見	島根県松江市
隱岐	島根県津和野市
長門	島根県萩市
肥前	佐賀県唐津市
肥後	熊本県熊本市
豊前	福岡県北九州市
筑前	福岡県福岡市
豊後	大分県大分市
日向	宮崎県宮崎市
薩摩	鹿児島県鹿児島市
鹿兒	鹿児島県鹿児島市



区總辦金世輝 北方國權社



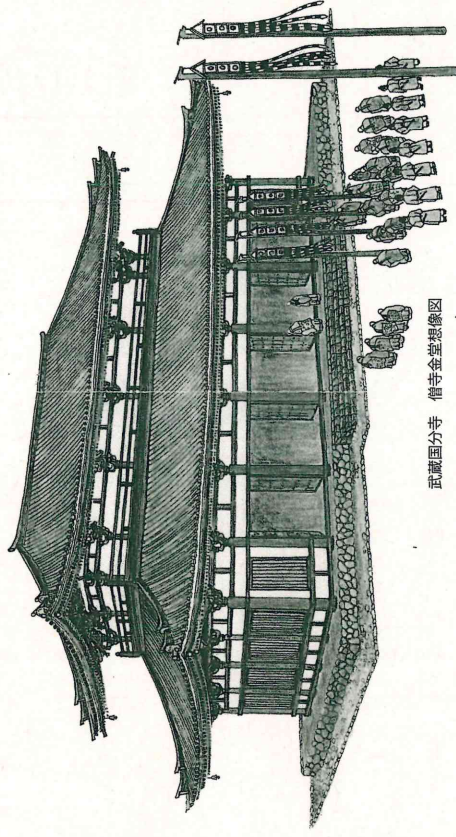
國名	所在地
紀伊	備前 和歌山県紀伊市
淡路	尾道 和歌山県高田市 (指定地) 備前 兵庫県南あわじ市 尾道 兵庫県南あわじ市 (指定地) 備前 伊豆県熱海市
阿波	尾道 徳島県西部石井町
讃岐	備前 香川県高松市
伊予	備前 愛媛県今治市 尾道 愛媛県今治市 (指定地)
土佐	備前 高知県高知市 尾道 (不詳)

山背	信寺 尼寺	京都府木津川市
大和	信寺 尼寺	奈良県奈良市
河内	信寺 尼寺	大阪府柏原市
和泉	信寺 尼寺	大阪府和泉市
摂津	信寺 尼寺	大阪府大阪市 (不明)

国名	所在地
伊賀	信濃 伊賀市
伊勢	三重 津市 (伊勢)
伊豆	三重 桑名市 (伊豆)
志摩	三重 志摩市 (志摩)
尾張	愛知 豊田市 (尾張)
三河	愛知 豊田市 (尾張)
遠江	静岡 静岡市
駿河	静岡 静岡市
伊豆	静岡 伊豆市
甲斐	山梨 市川市
相模	神奈 相模原市
武蔵	東京 東京都心部
安房	千葉 千葉市
上総	千葉 千葉市
下総	千葉 千葉市
常陸	茨城 水戸市

地名	所屬區域	所在地	所屬區域	所在地
北江	尼特	溫里奧里市 (精定地)	溫里奧里市 (精定地)	溫里奧里市 (精定地)
美濃	尼特	(不明)	尼特	(不明)
飛騨	尼特	岐阜縣美濃市	尼特	岐阜縣美濃市
信濃	尼特	岐阜縣高山市	尼特	岐阜縣高山市
上野	尼特	長野縣上田市	尼特	長野縣上田市
下野	尼特	群馬縣高崎市	尼特	群馬縣高崎市
陸奥	尼特	栃木縣宇都宮市	尼特	栃木縣宇都宮市
羽羽	尼特	宮城縣仙台市	尼特	宮城縣仙台市
	尼特	山形縣田子市 (精定地)	尼特	山形縣田子市 (精定地)

地名	所 在 地
若狹	備前 鞆井原(今)市(備前)
越前	備前 鞆井原(今)市(備前)
加賀	備前 石見小豆市(不 明)
能登	備前 石見小豆市(不 明)
越中	備前 山崎(今)市(不 明)
越後	備前 新湊(今)市(不 明)
佐渡	備前 新湊(今)市(不 明)

[illegible]

区總辦金世輝 北方國權社



國名	所在地
紀伊	備前 和歌山県紀伊市
淡路	尾道 和歌山県高田市 (指定地) 備前 兵庫県南あわじ市 尾道 兵庫県南あわじ市 (指定地) 備前 伊豆県熱海市
阿波	尾道 徳島県西部石井町
讃岐	備前 香川県高松市
伊予	備前 愛媛県今治市 尾道 愛媛県今治市 (指定地)
土佐	備前 高知県高知市 尾道 (不詳)

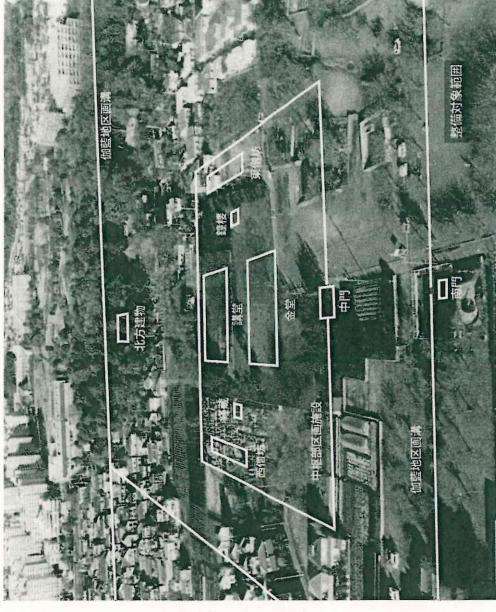
山背	信寺 尼寺	京都府木津川市
大和	信寺 尼寺	奈良県奈良市
河内	信寺 尼寺	大阪府柏原市
和泉	信寺 尼寺	大阪府和泉市
摂津	信寺 尼寺	大阪府大阪市 (不明)

国名	所在地
伊賀	信濃 伊賀市
伊勢	三重 津市 (伊勢)
伊豆	三重 桑名市 (伊豆)
志摩	三重 志摩市 (志摩)
尾張	愛知 豊田市 (尾張)
三河	愛知 豊田市 (尾張)
遠江	静岡 静岡市
駿河	静岡 静岡市
伊豆	静岡 伊豆市
甲斐	山梨 市川市
相模	神奈 相模原市
武蔵	東京 東京都心部
安房	千葉 千葉市
上総	千葉 千葉市
下総	千葉 千葉市
常陸	茨城 水戸市

地名	所屬區域	所在地	所屬區域	所在地
北江	尼特	溫里奧里市 (精定地)	溫里奧里市 (精定地)	溫里奧里市 (精定地)
美濃	尼特	(不明)	尼特	(不明)
飛騨	尼特	岐阜縣美濃市	尼特	岐阜縣美濃市
信濃	尼特	岐阜縣高山市	尼特	岐阜縣高山市
上野	尼特	長野縣上田市	尼特	長野縣上田市
下野	尼特	群馬縣高崎市	尼特	群馬縣高崎市
陸奥	尼特	栃木縣宇都宮市	尼特	栃木縣宇都宮市
羽羽	尼特	宮城縣仙台市	尼特	宮城縣仙台市
	尼特	山形縣田子市 (精定地)	尼特	山形縣田子市 (精定地)

地名	所 在 地
若狹	備前 鞆井原(今)市(備前)
越前	備前 鞆井原(今)市(備前)
加賀	備前 石見小豆市(不 明)
能登	備前 石見小豆市(不 明)
越中	備前 山崎(今)市(不 明)
越後	備前 新湊(今)市(不 明)
佐渡	備前 新湊(今)市(不 明)

磯寺	京都府京都市
内波	大阪府大阪市
丹波	兵庫県姫路市
後免	京都府京都市
馬場	京都府京都市(特定地)
因幡	兵庫県三木市
伯耆	鳥取県鳥取市
出雲	鳥取県倉吉市
石見	島根県松江市
隱岐	島根県津和野市
長門	島根県萩城跡の町司



僧寺跡中樞部航空写真(南から)

武蔵国分市・立川市の町

平成26年度に復元整備した僧寺講堂墓壇（北東から）

武蔵国の僧寺跡と尼寺跡は、武蔵国分寺跡として大正11年10月13日に国の史跡に指定されました。

武蔵国分寺跡の整備は、尼寺跡から先に平成4年より開始され、こちらは整備完了後の平成15年4月より市立歴史公園武蔵国分尼寺跡として公開しています。続いて僧寺跡では、平成15年度より24年度まで発掘調査(整備のための基礎データ収集)を実施し、並行して平成23年度より中核部の整備工事を進めています。

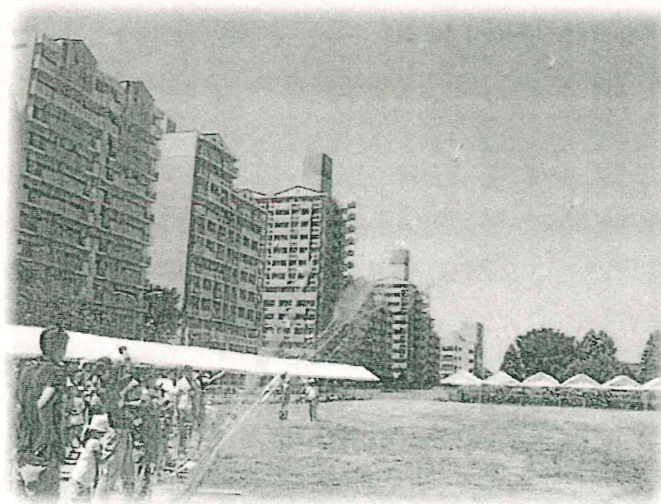
金鐘寺中樞部の整備工事で復元や表示の対象となるのは、講堂・鐘樓・金堂・中門・中樞部（区画施設（※・溝））です。平成26年度には講堂基壇を復元整備し、中樞部のおよそ北側半分の整備が終了しています。平成28年度には、鐘樓・中門・区画施設（※・溝）の範囲を表示し、平成29・30年度には金堂基壇の復元整備を行う予定です。合わせて、照明施設や出入口など周辺環境の整備も行います。

武蔵国分寺跡が、歴史学習の場、日常の憩いの場として、地域の方々や来訪者の方々にとってさらに魅力的な場所となるよう、整備・活用を進めていきます。

※『異学ガイド武蔵国分寺のはなし—改訂三版増補版—』をもとに作成

『国分寺市ビジョン』

- ・「国分寺市ビジョン」とは・・・・・・・・・・1
- ・未来のまちの姿・・・・・・・・・・1
- ・分野別の都市像・・・・・・・・・・2
- ・まちづくりの基本理念・・・・・・・・・・3



国分寺市ビジョン

「国分寺市ビジョン」とは

国分寺市の最高規範である国分寺市自治基本条例（平成 20 年条例第 43 号）では、総合的かつ計画的な市政運営を図るため、「基本構想」の策定を定めています。国分寺市では平成 29（2017）年度から平成 36（2024）年度までの新たな基本構想を「国分寺市ビジョン」と称することとしました。

国分寺市ビジョンでは、国分寺市自治基本条例のもとに、長期的な視点に立ち、市民・事業者等とともに描く「未来のまちの姿」、「分野別の都市像」、「まちづくりの基本理念」を以下のとおり定めます。

未来のまちの姿

市民・事業者等とともにまちづくりを進める上での共通の目標として、「未来のまちの姿」を次のとおり定めます。達成目標年度は、8 年後の平成 36（2024）年度とします。

『魅力あふれ ひとがつながる 文化都市国分寺』

「魅力あふれ」とは

名水百選のお鷹の道・真姿の池湧水群の「水」、武蔵国分寺跡等の「歴史・文化」、国分寺崖線周辺をはじめとした自然や新田開発から続く都市農業の「緑」、日本の宇宙開発発祥の地、新幹線の技術開発の地の「科学」など、国分寺には先人から受け継いだ様々な魅力があります。また、地域を支える「ひとの温かさ」、快適・便利に暮らせる「住み良さ」、市民・事業者等のアイデアと協力による「多様な子育て環境」など、国分寺は住んでこそ触れることのできる魅力にもあふれています。

《魅力あふれ》には、これらの国分寺の魅力を一層高めていくことで、誰もが住みたいまち、住み続けたいまちを目指すという意味が込められています。

「ひとがつながる」とは

災害時の助け合い、子どもの育ち・子育て支援、高齢者の健康づくりなど、様々な場面において、ひとのつながり・地域のつながりの重要性が再認識されています。一方、国分寺には無限の可能性を持つ子どもや若者たち、豊かな才能を持つ市民・事業者等が多様な活動を行っています。これらの人々が新たに結び付くことができれば、更なるまちの活性化が期待できます。

《ひとがつながる》には、市民一人ひとりが、世代、性別、職業などの枠を超えてつながり、強いきずなと活力のあるまちを目指すという意味が込められています。

「文化都市国分寺」とは

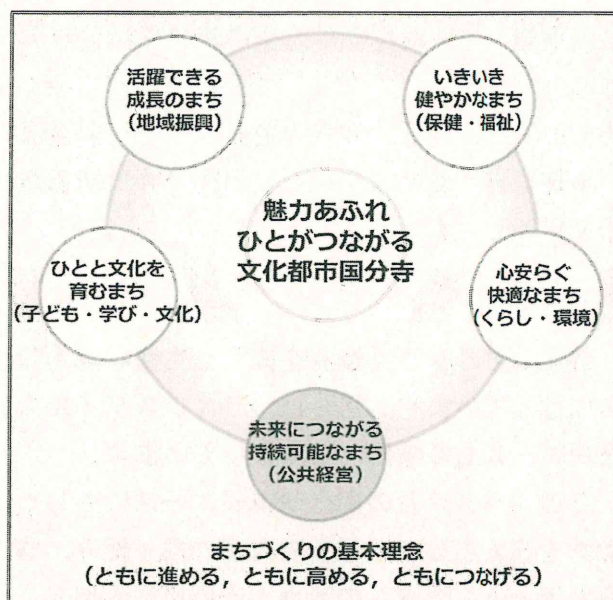
武蔵国分寺跡をはじめとする数々の歴史的遺産により、国分寺の文化的環境は、特色があり、かつ伝統あるものになっています。市は昭和 49（1974）年に初めて基本構想を策定して以来、目指すべき将来像として「健康で文化的な都市」を掲げてきました。

《文化都市国分寺》には、これまでの歴史を受け継ぎ、「国分寺」の名にふさわしい文化の薫り高いまちを目指すとともに、新しい文化の醸成を図り、まちの魅力として発信し続けていくという意味が込められています。

分野別の都市像

未来のまちの姿『魅力あふれ ひとがつながる 文化都市国分寺』を実現するために、次の5つの都市像を定めます。

「未来につながる持続可能なまち」の都市像が、その他の各都市像を下から支えることで、効率的かつ効果的に各分野の施策を推進していきます。



○「ひとと文化を育むまち」（子ども・学び・文化）

文化は豊かな心を育み、豊かな心は新たな文化を生み出します。学校教育はもちろんのこと、市民すべてに開かれた学びの場があり、国分寺の歴史と文化を感じられる環境の整備に努めていくことが重要です。

また、次世代を担う子どもたちが健やかに育つことは、国分寺の歴史と文化を将来につなげるためにも不可欠です。地域が支え合って子どもの育ち・子育てを支援し、ひとと文化を育み、すべてのひとが将来に向けて歩み続けることのできるまちを目指します。

○「活躍できる成長のまち」（地域振興）

豊かな自然と歴史に恵まれ、都心へのアクセスが良い国分寺には、まちとして更に発展していく可能性が残されています。また、このまちに住み、働き、学び、活動するすべてのひとにも、未来に向けて活躍の幅を広げる多様な可能性があります。

これらの可能性を最大限に活かし、まちもひとともに更なる成長を続けていくため、すべてのひとが互いを尊重し、地域のなかで協力し合って、一人ひとりが活躍できるまちを目指します。

○「いきいき健やかなまち」（保健・福祉）

人口減少、少子高齢化など社会環境が変化するなかにあっても、市民が健康で、社会参画する機会や経験したことを社会に還元する機会を持ち、生きがいのある生活が続けることができれば、まちの活力は更に高まるものと考えられます。

健康は身体だけでなく、心や生活環境の問題とも大きく関わってくることから、困った時に相談ができ、支援が受けられる体制を整えることで、子どもから高齢者まで、障害のあるひともないひとも、国分寺で暮らすすべてのひとが自分らしく、いきいき健やかに生活できるまちを目指します。

○「心安らぐ快適なまち」（くらし・環境）

都心に近いにもかかわらず自然を感じられることは、国分寺の大きな魅力の一つです。国分寺の自然環境、住環境を守り、次の世代に国分寺の良さを引き継いでいくことが大切です。また、すべてのひとが国分寺で安心して暮らし続けていくためには、まちの快適性・利便性・安全性を更に高めていくとともに、災害や犯罪への対策を強化することも欠かせません。

多様な年代にとって住み良い国分寺であるために、すべてのひとが心安らぎ、快適に過ごせるまちを目指します。

●「未来につながる持続可能なまち」（公共経営）

自然災害の増加、経済を支える生産年齢人口の減少など、自治体が直面する課題は年々厳しいものになっています。さらに、ライフスタイルの多様化や ICT（情報通信技術）の進展などにより、市民ニーズも多様化・高度化しています。

このような社会の変化や市民ニーズにもしっかりと応えていくため、公共経営の視点から、地域の力を支えとして、不断の改革に取り組み、強固な財政基盤を確立していきます。また、市民・事業者等とともにまちの活力と安心を生み出すことで、将来に負担を先送りせず、災害などの不測の事態にも対応できる、未来につながる持続可能なまちを目指します。

まちづくりの基本理念

「未来のまちの姿」及び「分野別の都市像」の実現に向けて、以下に掲げる「まちづくりの基本理念」を念頭に置き、国分寺市ビジョン実行計画に示す施策・事業を展開していきます。

1 ともに進める ～ オール国分寺で地域課題の解決に取り組めます ～

社会経済環境が目まぐるしく変化し、また複雑化するなかで、地域課題の発見・解決を行政だけで行うことは困難になっています。市・市民・事業者等が情報を共有し、それぞれが能力を発揮して、参加と協働により、地域課題の発見・解決に取り組むことが必要です。市・市民・事業者等が一丸となった「オール国分寺」でより良い国分寺のまちづくりを進めていきます。

2 ともに高める ～ 国分寺のあふれる魅力を市民・事業者等とともに高めています ～

国分寺の自然や歴史、恵まれた立地環境は国分寺に住む誰もが魅力とを感じるポイントです。また、市内には、一部のひとにしか知られていない魅力がまだまだ埋もれている可能性があります。市民・事業者等とともに国分寺の魅力を発掘し、市内外に発信することで、更にまちの魅力を高めていきます。

3 ともにつなげる ～ 国分寺の豊かさを市民・事業者等とともに未来へつなげていきます ～

今後も国分寺が発展を続けていくためには、市民・事業者等と力を合わせ、地域の力を高めていくとともに、行財政改革を継続していく必要があります。市民・事業者等との強いきずなを結ぶとともに、強固な財政基盤を築くことによって、国分寺の豊かさを未来へつなげていきます。

9 歴史

主担当課： ふるさと文化財課

■目指す姿

文化財の調査・研究，保存と整備により，歴史遺産をいかした魅力あるまちづくりが進んでいます。また，市民が様々な機会をとらえ，文化財に触れ，親しみ，理解を深めています。

■まちづくりの指標

指標名	指標の説明	現状値	目標値	
			H30	H32
史跡武蔵国分寺跡を訪れたことがある市民の割合	市民アンケートの数値	76% (H28)	90%	98%
歴史・文化財の保全に対する満足度	市民アンケートの数値	47.3% (H28)	60%	70%

■施策をとりまく現状

本市は，国指定史跡である武蔵国分寺跡や東山道武蔵路跡をはじめ，国指定名勝殿ヶ谷戸庭園，都指定名勝真姿の池湧水群などに代表される様々な文化財を抱え，歴史豊かなまちを形成しています。これら貴重な歴史遺産を後世に引き継ぐことは非常に重要です。

市では，史跡の公有化事業を進めており，史跡指定地全体の約 80%の公有化が完了し(平成28年度実績)，歴史公園としての整備事業も『史跡武蔵国分寺跡〔僧寺地区〕新整備基本計画』に基づき，順次進めています。また，出土した瓦などの様々な文化財を保管するとともに，武蔵国分寺跡資料館を中心として公開・活用を図っています。

歴史公園や文化財展示施設には，市内外を問わず多くの方々が訪れています。テレビの撮影や雑誌等の取材も多いため，国分寺の魅力の一つとして触れ，親しみ，理解を深めてもらえるように，情報発信を継続的に実施しています。

■主な課題

- ・ 子どもから大人まで，市民が国分寺の歴史や文化に触れる機会を拡充することが求められています。
- ・ 市民による文化財の保護と普及に関するボランティア活動への支援が求められています。
- ・ 文化財収蔵庫が飽和状態になりつつあることから，出土品等の文化財の再整理，保管環境の改善が必要です。
- ・ 武蔵国分寺跡を歴史公園として整備し，市民が国分寺の歴史に触れながら憩える場や歴史学習の場とするとともに，新たに観光資源として活用していくことが求められています。

■施策の展開

取組方針①：文化財普及の推進

国分寺の歴史や文化財に市民が触れ、学び、理解することは、文化財愛護の気持ちを育み、「ふるさと こくぶんじ」への思いとして地域に誇りと郷土愛を持つきっかけとなります。特に子どもの時期から文化財に触れることで、我がまちを理解し、愛する心が育まれ、そして大人になって「ふるさと」として心に残ります。そのため、市民が国分寺の歴史や文化財に触れる機会を積極的に提供します。

取組方針②：ふるさと文化財愛護ボランティアの養成と活動支援

文化財の保護・普及に貢献したいという思いを持ち、「史跡ガイドボランティア」、「文化財普及ボランティア」をはじめ、各ボランティア活動を行っている市民がいます。市としても、市民自らが文化財の保護と普及に関するボランティア活動のできる環境を整備し、ボランティア活動を行う上で必要な知識、技術及び活動の機会を提供することで、市民の活動を支援していきます。

取組方針③：文化財の保存・公開活用の推進

文化財を後世へ伝えるため大切に保存するとともに、多くの市民に公開し、地域の歴史を学び、理解するための大切な財産として活用していきます。本市が現在保管・管理している文化財は膨大で、収蔵庫は飽和状態にあることから、出土品等の文化財を再整理し、保管環境の改善を図っていきます。また、新たな保存・公開の場の設置を視野に入れながら、これらの文化財の公開・活用を推進します。個人所有の文化財についても、所有者の協力を得て保存と公開活用を進めます。

取組方針④：史跡の保存・整備・活用の推進

天武 14(685)年頃に整備された東山道武蔵路跡や、天平 13(741)年に聖武天皇の「国分寺こくふりやう建立のみことのり詔」により設置された全国でも最大級の面積を持つ武蔵国分寺跡を大切に保存する必要があります。引き続き、史跡指定地の公有化及び歴史公園としての整備を進め、市民が史跡武蔵国分寺跡に触れながら憩える場や歴史学習の場として活用していきます。また、ICTの活用により、全国や海外からの来訪者に情報発信できるように周辺環境の整備を進めます。

■関連する個別計画

計画名	計画期間
国分寺市教育ビジョン	平成 27(2015)年度～平成 31(2019)年度
史跡武蔵国分寺跡[僧寺地区]新整備基本計画	平成 15(2003)年度～平成 43(2031)年度
おたかの道湧水園内歴史的建造物保存活用計画	—

■ともに進めるために

内容
国分寺の歴史の魅力を市内外へ発信し、広めます。
図書館などを利用し、地域の歴史について学びます。

目指す姿実現のための中心事業

中心事業①

事業名：学校教育としての文化財活用の推進

関連する施策の展開・・・取組方針①

・事業目標

小・中学生が文化財を直接見て、触れることにより、国分寺の歴史について学び、ふるさと国分寺への誇りと郷土愛を持つきっかけをつくります。

・数値目標

指標名	指標の説明	現状値	H30	H32
史跡武蔵国分寺跡及びその周辺で校外学習を行う市内小・中学校数	市内の市立小・中学校 15 校、私立小・中学校2校のうち、校外学習を行った学校の数	12 校 (H27)	17 校	17 校

・事業内容

史跡武蔵国分寺跡及びその周辺で市内の小・中学校が実施する校外学習の受入れを行うとともに、学校に対し積極的に案内を行います。また、市内で発掘された石器や土器、瓦などの文化財を生きた教材として「総合学習」や「社会科(歴史)」の授業へ貸し出します。さらに、市の職員による出前授業を実施します。

・事業費

平成 29 年度	0円
平成 30 年度	0円
平成 31 年度	0円
平成 32 年度	0円
4年間の総事業費	0円

中心事業②

事業名：ボランティア活動者数の拡大

関連する施策の展開・・・取組方針②

・事業目標

ボランティアによる文化財普及活動を促進します。

・数値目標

指標名	指標の説明	現状値	H30	H32
ボランティアの活動人数	史跡ガイド・普及・調査・発掘ボランティアの活動人数(延べ)	398 人 (H27)	480 人	520 人

・事業内容

ボランティア活動の魅力の発信や、ボランティア養成講座の開催などにより、文化財の保護や普及等の実践活動に自主的に参加するボランティア活動者数の拡大を図ります。また、フォローアップ研修等を実施し、活動場所を拡充します。

・事業費

平成 29 年度	65 千円
平成 30 年度	65 千円
平成 31 年度	65 千円
平成 32 年度	65 千円
4年間の総事業費	260 千円

中心事業③

事業名： 出土した埋蔵文化財(出土品)の公開活用, 及び保存再整理の推進

関連する施策の展開・・・取組方針③

・事業目標

出土品等の文化財を身近な施設で展示することにより, 市民が気軽に文化財に触れられる環境を整え, 文化財への理解を深めます。

・数値目標

指標名	指標の説明	現状値	H30	H32
文化財展示施設を中心とした公開展示の充実	出張展示, 企画展示等を実施した施設数	11 か所 (H27)	13 か所	15 か所

・事業内容

公民館, 図書館などの公共施設において, テーマを決めて, 文化財等の出張展示を行います。また, 歴史的建造物である旧本多家住宅長屋門について, 展示施設としての公開活用を進め, 国分寺の歴史について学び, 理解を深める機会の充実に図ります。

・事業費

平成 29 年度	85,347 千円
平成 30 年度	23,893 千円
平成 31 年度	23,893 千円
平成 32 年度	23,893 千円
4年間の総事業費	157,026 千円

中心事業④

事業名： 史跡武蔵国分寺跡保存整備事業(僧寺地区)の推進

関連する施策の展開・・・取組方針④

・事業目標

史跡指定地を, 武蔵国分寺跡(僧寺跡)の往時の姿を体感でき, 市民が憩える場, 歴史学習できる場として整備し, 観光資源としても活用していきます。

・数値目標

指標名	指標の説明	現状値	H30	H32
史跡武蔵国分寺跡の整備完了面積	整備工事が完了した範囲の面積	38,990 m ² (H27)	44,385 m ²	51,715 m ²

・事業内容

史跡指定地の公有化を進めます。また, 『史跡武蔵国分寺跡僧寺地区新整備基本計画』に基づき, 年次ごとに整備区域を定め, 事前の遺構調査の結果をもとに, 歴史公園としての保存・整備工事を行います。

・事業費

平成 29 年度	299,503 千円
平成 30 年度	250,984 千円
平成 31 年度	355,315 千円
平成 32 年度	287,533 千円
4年間の総事業費	1,193,335 千円